

「LINKA I 横浜金沢」地区を取り巻く環境

● 金沢シーサイドタウン

「金沢シーサイドタウン」は、1976年(昭和42年)「金沢シーサイドタウン計画」により金沢地先埋立地(約660ha)の西側(約82ha)に神奈川県、横浜市、住宅公団によって整備された約10,000戸の大規模ニュータウンであり、住みやすいまちづくりを目的に、市がアーバンデザインを導入した住宅地を計画し、団地内の通過交通を遮断するとともに、歩行者専用道路に沿って学校・保育園や日用品スーパーなどを計画的に配置されている。

都市計画の中で、住工分離の観点から、海岸側の産業団地と分離するために、中央南北に金沢緑地(グリーンベルト)と国道357号(東京湾岸道路)が通る。この金沢緑地の西側(内陸側)が住宅地であり、並木一丁目第一、並木一丁目第二、並木二丁目、並木三丁目、柴の各団地が金沢シーサイドタウンである。

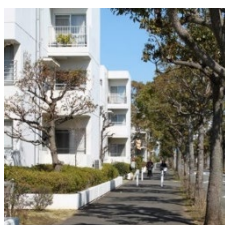
旧海岸線を生かした公園の設置、住宅地と工業団地間のグリーンベルト、海の公園等の緑地を設置した、住みやすい理想的なまちづくりを行っているとして、1992年(平成4年)に都市景観100選に選定されている。

金沢シーサイドタウンには、約2万人の人々が生活を営んでいる。その住居のほとんどがマンション等の集合住宅であり、3~5階建の中層棟5割、6階建て以上の高層棟4.5割、分譲住宅は約6割、UR賃貸・横浜市住宅供給公社住宅などの公的な賃貸住宅3割、その他、社宅・一戸建て等が1割以下の割合となっている。

1978年(昭和53年)から1984年(昭和59年)にかけて住宅地へ入居しており、既に35年以上が経過していることから、高齢化と緩やかな人口減少が進行している。



建設中の住居



広い歩道・自然と調和



富岡並木ふなだまり公園



金沢区沿岸地域図